

- 1 **ペンテコステ主義に関する
包括的な視点からの分析と評価**
A.初期北米ペンテコステ主義の評価する視点から
—With “Introduction to Pentecostalism” by Allan Anderson—
- 2 **1.神学と経験について**
 1. エキュメニカルな運動—共通の教理よりも、共通の経験
 2. すぐに、教理的相違問題が浮上—異言と聖霊のバプテスマの関係、洗礼の式文の問題
- 3 **2.初期ペンテコステ主義の本質**
 1. フル・ゴスペル
 2. 後の雨
 3. 使徒的信仰
 4. ペンテコステ
- 4 **3.初期北米ペンテコステ主義の強み**
 1. 終末論的希望のメッセージ
 2. 並はずれた人種間の包摂性
 3. 聖霊の経験—入会の儀式というよりも、新しい時代に生かされていることを確信させる神秘的出会い
 4. 教理よりも、神経験、証しを中心とする物語神学
 5. 経験の強調は、認識論的パッケージを粉砕する
- 5 **4. 初期北米ペンテコステ主義の弱み**
 1. 経験の強調は、認識論的パッケージを粉砕する
 2. 期待された終わりの日—起こらなかった
 3. 彼らは戦えば闘うほど、ますます増殖していった
 4. パーハムとシーモアの不和：人種間相互の融合理解の欠如、黒人の霊性理解の欠如
 5. パーハムの“アングロイスラエル”主義への没頭
- 6 **5.ペンテコステ主義における課題**
 1. 教義・信条への反対からスタート、しかしすぐに教理的論争
 2. 伝統的教派からの孤立・拒絶・あざけり→アンチ・エキュメニカルへ
 3. それにも関わらず、健康的な伝染病が拡散するかのような、沸きたち、湧出してくる霊性→情緒的に人々に触れ、経験への強調は証しと個人的接触によって広がって
 4. みずばらしい起源との接触を失い、富裕な中間層の有徳の霊的イデオロギーと化すなら→ペンテコステ主義はもはやキリストの模範にならう運動足り得ないものに